

# PICK UP MOVIE



©2019 BLACK HORSE PRODUCTIONS. ALL RIGHTS RESERVED

## SWEET THING スウィート・シング

[2020年/アメリカ/モノクロ+パートカラー/91分] 監督・脚本：アレクサンダー・ロックウェル 出演：ラナ・ロックウェル、ニコ・ロックウェル、ウィル・パットン、カリン・パーソンズ

“宝物みたいな1日だった”

15歳のビリーと11歳のニコ。  
逃走しよう、自由になれる場所へ。

週末子ども  
映画館  
対象作品

普段は優しいが酒を飲むと人が変わる父アダム。家を出て行った母親イヴ。頼る大人がいないビリーとニコの姉弟。ある日出会った少年マリクとともに、彼らは逃走と冒険の旅に出る！世界はとても悲しい。でも、幸福な1日はある。その1日がずっと長く続きますように。すべての大人に子供時代のきらめきを思い起こさせ、ベルリン国際映画祭ジェネレーション部門で最優秀作品賞を受賞した。

[上映日程] 2/12~25 (休映：2/14、21)

こちらと一緒に！ **イン・ザ・スープ** 35mm  
フィルム  
上映



[1992年/アメリカ/35mm/モノクロ/93分] 監督：アレクサンダー・ロックウェル 出演：ステイヴ・ブシェミ、シモア・カッセル、ジュニア・パールス、ジム・ジャームッシュ

人生は“イン・ザ・スープ”なことだらけ…でも、心はきつとあたたまる。

クリスマスのNY。映画作りに没頭する破産寸前の青年アルドルフォは、隣に住む美女アンジェリカをヒロインにいつか映画を撮ることを夢想している。しかし、現実には家賃の支払いさえままならない。そこへ映画製作の資金援助をするという、怪しげな男ジョーが現れるのだが…？

[上映日程] 2/19~25 (休映：2/21)

## 子供時代は 誰にとっても きらめきの時間

この世には、親に頼ることができず、自分の力で成長していかなければならない子供たちがいる。そういう現実があると知ってはいるが、映画の中の話であっても彼らが背伸びして苦闘する姿を見るのはつらい。15歳の姉ビリーと11歳の弟ニコは、父親からも母親からもしかるべき保護を受けられず、居場所がない。同じような少年マリクと出会い、3人は逃亡の旅に出る。

彼らを取り巻く苛酷な状況にはハラハラさせられようだが、それにしても見終えたとき透明な気分が残るのはなぜだろう。考えてみるに、それはインディーズ映画だからこそ生み出せたもののように思える。インディーズの作家たちは、大手の制作体制には乗らず、その代わり資金もスタッフも自分で集めなければならないが、だからこそ本当に自分が撮りたいことに集中できる。それがこの子供の複雑な感情を見事にすくいあげた、味わい深い作品に結実したのではないだろうか。

飲んだくれの父親との貧しい生活の中で、ビリーとニコは空き缶拾いなどで小銭を稼ぎ、それでも時には弾けるような喜びを見せる。母親の元に身を寄せて思わぬ苦境に立たされても、屈服はしないぞという自尊心をのぞかせる。ビリーとニコは監督の実際の子供が演じているが、おそらく監督は、彼らが大人の入り口にさしかかる前に、人生の中で二度と取り戻すことのできない子供時代を記録しておきたかったのではないだろうか。

ビリーとニコの母親役は俳優で小説家でもある実の母が、父親役は監督の友人の俳優が演じている。2人の演技力と存在感によって、貧困や人種問題などの絡む厳しい現実を物語に取り込むことに成功した。そんな困難の中で生きる子供たちの自然な所作がとらえられ、内にある静かなエネルギーを感じさせる。子供時代というのは、誰にとっても輝いている時間であってほしいとの監督の願いが滲み出ている佳作だと思う。

tamura shizue

田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977年にファスビンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からホウジョウシエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。